

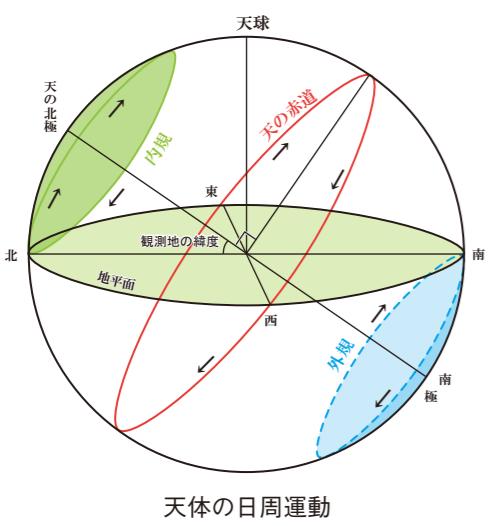
キトラ古墳 金箔・銀箔を復元した天文図

キトラ古墳の天井には、現存する世界最古の本格的な天文図が描かれています。今回ご紹介するのは、天文図の金箔と銀箔を復元して、築造当初の輝きに近づけたものです。約350個の星を朱線で結んだ中国式の74以上の星座と、日月が描かれています。

壁画は描かれてから1300年以上の時を経て、傷みが進んでいたため、保存のために取り外して修理することになりました。奈良文化財研究所では、取り外す前の状態を記録するため、壁画を高精細デジタルカメラで撮影し、ゆがみが出ないように合成したフォトマップを作製しました。このフォトマップを漆喰を塗付した紙に印刷し、星と太陽に金箔、月に銀箔を貼ったものが本作品です。

このような正確なフォトマップの分析から、キトラ古墳天文図の背景となった、古代の東アジアの天体観測に迫る研究も進んでいます。飛鳥資料館の秋期特別展『キトラ古墳と天の科学』では、こうした最新の研究成果を交えながら、飛鳥時代の科学とその背景を詳しくご紹介します。ぜひご来館ください。

(飛鳥資料館 西田 紀子)



内規...一年中見える北天の範囲。
天の赤道...地球の赤道面の延長と天球が交わる円。
外規...一年間の南天の観測限度の範囲。この外側の星は一年中地平線の下となつて見えない。
道...一年間の太陽の軌道を示す。キトラ古墳では本来の位置とは異なつていて、北極付近に位置する。

